

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

「急がば回れ」「二度あることは三度ある」。ことわざを聞くと、古くさいと感じる人がいるかもしれない。しかしに、ことわざの多くは何百年も前から使われてきた言葉だ。しかし、古いということと、役に立たないということは、別の話である。

ことわざとは何か。ひとことで言えば、大勢の人の経験を、短い言葉に押し縮めたものだ。急いで近道を選び、かえって遅くなった人は、昔から数えきれないほどいただろう。その一人一人の失敗を、いちいち長く語っていたら、伝えるのに時間がかかる。そこで、「急がば回れ」という七つの音に押し縮めた。短いから覚えやすく、覚えやすいから、次の世代へ渡すことができた。

ここで大切なのは、ことわざが「答え」ではなく「注意」だということだ。「急がば回れ」は、いつでも遠回りをしろと命じているわけではない。急いでいるときほど、人は判断を誤りやすい。そのことを、耳元でさやいてくれる言葉なのである。判断そのものは、その場の自分がするしかない。

だから、ことわざには、たがいに反対のことを言うものがある。「善は急げ」と「急がば回れ」は、正反對に見える。しかし、どちらも間違つてはいない。ためらっているうちに機会を逃す人もいれば、あわてて失敗する人もいる。二つのことわざは、その両方の危なさを、それぞれ覚えていなのだ。どちらを思い出すべきかは、その時の状況が決める。

道具にたとえるなら、ことわざは古い定規のようなものだ。定規は何も決めてくれない。しかし、線を引く前に当ててみると、まっすぐかどうか分かる。古い言葉を、自分の今の判断に当ててみる。そのときことわざは、古い道具ではなく、現役の道具になる。

(この問題のための書き下ろし)

問一 筆者は、ことわざとは何だと述べていますか。「もの」につながるように、本文中から二十字以内で抜き出しなさい。

[illegible]

問二 「短いから覚えやすく、覚えやすいから、次の世代へ渡すことができた」とありますが、この一文の役割として最も適切なものを、次のア～エから一つ選びなさい。

ア　ことわざが短い言葉になった理由と、その結果を順に示している。

イ　ことわざを覚えるのが難しいことを、読者に注意している。

昔の人が失敗を語らなかった理由を説明している。

工 短い言葉より長い説明のほうが伝わることを示している。

問三 「ことわざが『答え』ではなく『注意』だ」とありますが、「急がば回れ」はどんなことを注意している言葉だと筆者は述べていますか。「～ということ」につながるように、本文中から二十字以内で抜き出しなさい。

[illegible]

問四 「善は急げ」と「急がば回れ」が正反対に見えるのに、筆者が「どちらも間違っている」と言うのはなぜですか。四十五字以内で説明しなさい。

[illegible]

問五 筆者がことわざを「古い定規」にたとえた理由として最も適切なものを、次のア～エから一つ選びなさい。

ア 定規のように、正しい答えを一つに決めてくれるから。

イ 定規は古くなると使えなくなるように、ことわざも役に立たなくなるから。

ウ 定規のように何も決めてはくれないが、自分の判断に当たてみると、ずれに気づけるから。

エ 定規のように、学校で必ず習うものだから。